

○ヒグマの適正管理に必要な調査・研究

項目	内容	実施主体	実施頻度	関連する「本計画の目標」	備考
繁殖状況の調査	標識装着個体の追跡や遺伝子調査、外部的特徴による個体識別調査の結果から、毎年の産子数や生存率など繁殖状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	外見的特徴による個体識別調査は、実施地域が斜里町の一部（幌別・岩尾別地区、ルンチャ地区）に限定。 2017年までは継続、その後の実施は未定。
血縁関係の把握	有害捕獲や狩猟により死亡したヒグマについて、個体識別のための遺伝子調査を実施、血縁関係を把握する。また、生体からもサンプルを採取して同様の調査を実施する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	2017年までは継続、その後の実施は未定。
生息地利用様式や行動パターンの調査	標識装着個体の追跡等により、土地利用様式や行動パターンを把握する。	知床財団、北海道大学、知床博物館	(毎年)	⑤⑥⑦	捕獲地域が斜里町と標津町の一部に限定。 北大・博物館による調査は2017年までは継続、その後の実施は未定。
問題個体数の動向把握	出沒情報を基にヒグマの問題個体数を推定する。	環境省、知床財団、道環境研	毎年	②③④⑤⑥⑦	標津町では実施なし。 ※実施主体については調整中。
観光船からのヒグマの目撃状況	観光船からのヒグマの目撃状況（頻度・構成）から、ヒグマの生息状況を把握する。	知床ウトロ海域環境保全協議会	毎年	①	ウトロ港発着の観光船でデータを採取。
ミズナラ結実調査	ヒグマの餌となるミズナラ堅果について、シードトラップを設置して、個数と重量を計測する。	林野庁	毎年	-	斜里町の2カ所（岩尾別・イダシュベツ）で実施。
サケ科魚類遡上調査	サケ科魚類の遡上状況を調査する。	林野庁、北海道	隔年	-	河川工作物の改良等に関連して実施。
遺産地域からの移動分散状況の調査 (広域的な捕獲個体との遺伝子情報の対比など)	標識個体の追跡、遺伝子情報の対比等により、遺産地域から知床半島基部、さらには道東各地へのヒグマの移動分散状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	未定	⑤⑥⑦	2017年までは継続、その後の実施は未定。
最低メス個体数カウント調査（出沒記録）	出沒情報等を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	環境省、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団、道環境研	毎年	①	※実施主体については調整中。
最低メス個体数カウント調査（DNA分析）	DNA分析結果を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	毎年	①	2017年までは継続、その後の実施は未定。
糞カウント調査	設定したコース上でヒグマの糞の発見頻度を継続的に記録する。複数手法による個体群動態のトレンド把握の一環として個体数推定の精度向上を図るほか、ヒグマの生息密度分布把握により広域へアトラップ調査の適切な設計に、また糞のDNA分析により繁殖状況調査や血縁関係把握、最低メス個体数調査等にも寄与する。	知床博物館、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団	毎年	①	試行的に実施し、その結果を踏まえ手法を検討し確立する。
広域へアトラップ調査による生息数推定	毛根から採取した遺伝子情報により、個体数を推定する。	未定	未定	①	実施方法・体制等について検討が必要。